

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200074		
法人名	株式会社ライフクリエイト		
事業所名	グループホーム喜楽(あい)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 12 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 5 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193200074-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、一日一日が利用者様各々のペースに合わせた生活になるよう働きかけている。その中で楽しみや役割のある生活ができるように支援している。

・生活の場であることを意識して、利用者様が得意とすること、ご自宅で行ってきたことなどを継続して行ってもらうことで、活力のある日々を送ることができるよう意識している。

・協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、医療面での支援が受けられるように体制を整えている。

・家族との関係の再構築の機会をとらえ、ご家族からのアセスメント、ニーズの把握をもとに信頼関係を大切にしている。・最後を迎える場としての役割を果たしており、看取りの実践を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な田園地帯に位置しており、各ユニットに玄関を設け、木のぬくもりを感じる和のしつらえの造りである。芝生が広がる中庭に続く廊下は日当たりが良く、そこかしこで日向ぼっこをしている利用者の姿も見られる。職員は利用者のエンパワメントを高める観点から、一人ひとりの生活スタイルを大切にするとともに、それぞれの潜在的な強みを引き出し、活き活きと主体的な生活が送れるよう支援に努めている。また、独自の介護計画書や実施記録の様式を持ち、ニーズオリエンテッドの視点に立って、介護計画に基づき、支援にあたっている。食事は、定期的に中央卸市場から新鮮な魚や野菜を取り寄せ、各ユニットで利用者に食べたい献立を相談しながら調理を行っている。また、主治医の選択は自由であり、主治医や訪問看護等との医療連携体制も整備し、利用者・家族の意向に沿った看取りケアも行っている。利用者の尊厳を大切にし、その人なりの生活が継続できるよう、話を聞く時間を設け、寄り添う支援を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき実践を行うように意識している。基本理念が確認できるように玄関に掲げてある。	「地域の中で自由と安全と楽しみをもって暮らしたい」との理念を掲げ、玄関に掲示するとともに、会議や研修の機会を通して職員間で共通理解を深めている。また、日々の実践を振り返り、理念に基づいた支援に努めている。	各職員がエビデンスに基づいたケアを実践しているが、改めて、新たな職員も共に、理念の共有に向けて取り組まれるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	きらくカフェ、芋煮会など様々な行事にボランティアのご協力を頂いている。また、地域の夏祭りや各種行事にも自治会等からご案内を頂き、参加している。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為実施できていない。	コロナ禍の状況にあり、行事等の地域交流は困難であるが、周辺の散歩の際に近隣住民と挨拶を交わしたり、農作業をしている方から、収穫した野菜を届けてもらったり、お返しをしたりする等の交流がある。また、自治会長や近隣施設とも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の方への理解や支援について話し合いを重ねてきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できていない。自治会発行の「ほんでんレポート」にグループホーム紹介や認知症に関する記事を掲載した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議など開催できていないが、紙面で状況や取り組みの報告などを行っている。	コロナ禍にあって、現在は書面開催しているが、行政だけでなく、自治会長や民生委員、老人クラブ、家族会代表等に対して、運営推進会議の報告文書と通信を合わせて配布し、機会を捉えて意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議や行事を開催することができず、顔を合わせることが減ってしまっている。紙面の報告や電話等で連携を取っている。	市担当者や地域包括支援センターとは、コロナ禍のため、以前より会う機会は減ったものの電話やファックス、メール等で、感染症対策や研修、空室情報等について、連絡を取り合う等して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は基本玄関の施錠はせず、自由な出入りができるようにしている。また、身体拘束に関する研修を設けている。身体拘束などの適正化のための対策を検討する委員会を運営推進会議に兼ねるて実施してきた。	日中は、玄関の施錠をせず、利用者が自由に外に出られる環境となっている。一緒に散歩に行ったり、一人で行かれる場合は、無理に制止せず、見守り支援している。また、身体拘束をしないケアに関する研修は講義形式で行った後、レポートを提出し、理解度を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を行うことで意識の継続に努めている。職員が岐阜県高齢者虐待対応支援チームに所属しており、社内研修を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する社内研修を行っている。弁護士や司法書士、社会福祉士と相談できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはわかりやすい言葉を用いて十分な説明をするように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ご家族との密接なやり取りが難しい状況であるが、電話などでご意見が伺えるように努めている。本年度、入所者・ご家族様アンケートを実施する予定でいる。	コロナ禍の状況にあるが、感染状況に合わせ、玄関先やガラス越し、面談室で会う等の工夫をしながら面会を行い、その際に意見を聞いている。利用者・家族対象に独自アンケートの実施に向けた取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回ミーティングを開催し意見交換をしている。また、個別に意見を伺う場を設けている。日々のスタッフの申し送りを十分に言い、業務日誌の中で意見を求めるなどして情報を共有し、運営に反映させるようにしている。	ミーティング前に職員に議題の提案を受け、会議で検討について行っている。また、会議で出された意見や提案について、ホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの働き方について希望を確認し、多様な働き方を受け入れていくことで労働環境を整えている。勤務態度や業務理解などを踏まえて評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を積極的におこないながら、育成への取り組みに努めている。マニュアル等の整備をしながら、すべてのスタッフが同じ取り組みができることを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市や地域包括支援センター、広域連合などの主催する研修会、活動を通じて連携し、サービスの向上に努めている。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、交流が難しくなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴し、受け止めながらお話しすることで不安を和らげたり、日々の変化に気づき寄り添いながら、安心して生活ができるように信頼関係を築いていくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の段階でご家族様と話し合い、できるだけ情報を得てどのようなケアを行っていくのかを話し合うことで安心感とより良い関係が築けるように努めている。その後も定期的にご家族と話し合う機会が必要である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期はどのような支援が必要か検討しながら進めている。その時々で適した支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを忘れず尊重し、しかし日常生活を共に過ごす関係であることを意識している。家事仕事等は、できる限り共に行い、穏やかな日常生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や美容院等への外出、外食や外泊をご家族様に協力して頂きながら、ともにご本人を支えていくという関係構築に努めている。ご家族様に行事に参加していただくことも、コロナ終息後に再開していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり面会の機会は減っている。通信でご様子を伝えたり、電話連絡をするなど関係を持つように努めている。面会制限の解除に伴い、面会の場を戻しつつある。	在宅時の主治医の継続やコロナ禍であっても、馴染みの美容院等への外出等、状況に応じて行っている。また、手紙や事業所通信の送付、電話の取次等、その時々に合わせて関係性が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになりそうときは、その前にスタッフが介入するが、それ以外ではできる限り見守りながら利用者同士の関わり合い、支え合う関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも来て頂けるような提案をし、相談に応じたりしている。気軽にお越しいただけるような関係を目指したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの様子から気づくことや小さな表情の変化等を見逃さないように努めている。一人ひとりじっくりとお話をする時間を設け、本人の思いや希望の把握に努めている。状態・状況の変化によって関わりが偏ることもある。	毎日の支援の中で、本人の反応を観察し、表情や言葉、行動から「快」・「不快」を読み取り、利用者それぞれに応じた声かけや接し方についても含めて、ケース記録や業務日誌に記録し、利用者の思いや意向を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話やご家族様との会話から話を掘り下げていくことで、以前の生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった1日のスケジュールはないため、一人ひとり思うように生活して頂けるよう努めている。その生活の中で、見守りながら一緒に生活する中で、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族の思いを確認し、アセスメントをもとに、ケアプランの作成を行うよう努めている。その後スタッフ全員が内容を把握してケアへとつなげている。	主治医や訪問看護が来所の際に、利用者それぞれの健康状態や医療や看護の状況について聞き取り、介護計画に反映している。独自の計画書や実施記録、モニタリング用紙があり、介護計画を意識しながら記録できる仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での言動や行動等を個人記録に書き記し、スタッフ間での情報共有やケアの見直しに活かしている。記録はご家族へ開示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や散髪など必要に応じてできる限り社会資源を活用しながらサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカボランティアやきらくカフェ、行事等ボランティアの協力を得ている。おもちゃ図書館のボランティアの協力も受けている。 * 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続や変更等は、ご本人の状態、ご家族の意向等を、話し合いによって行っており、受診や往診等を経て情報のやり取りを行っている。	かかりつけ医は自由に選択できるので、入居前からの医院を継続している利用者もある。医師の月2回の往診と訪問看護の毎週の訪問により、利用者の健康管理を行っている。24時間いつでも連絡が可能な体制を作っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な判断等、連携先訪問看護ステーションの協力を得ながら直接的な処置や医療につなげるように支援している。いつでも相談できるため、スタッフの負担軽減にもつながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院には、入院に至るまでの経緯や状況を記録に残したうえで、ご家族様や医療機関に説明している。スタッフが面会に行くことで早期退院に向けて現状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて入所時にはご家族様の思いを確認しているが、思いの変化も忘れずに、現状の思いを確認させていただきながら支援に努めたい。	入居時に重度化した場合について説明しているが、重度化や終末期になった場合には、再度、医師の説明のとともに、ホームのケア方針を説明し、意思の確認をし、医師、看護師と連携しながら、利用者・家族の思いに沿った終末期ケアを行っている。看取りケアについての研修も実施し、研鑽に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるように、年3回の普通救命講習を受講計画を立てて実施している。(今年度はコロナのため実施見合わせ)AEDを設置しており、施設内や地域の方に活用していただきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方の協力を呼びかけている。毎月、避難訓練を行い反省点を話し合っている。全職員が訓練に参加できるようにすることが必要だと考えている。今後非常災害時のマニュアル等検討していく。	毎月7日を防災訓練の日と定め、利用者も参加して訓練を行っている。年2回、消防署の協力を得て、総合的な訓練を実施し、講評、指導を得ている。発電機を備え、備蓄の用意もある。現在、地域との連携やBCPについても取り組んでいるところである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをするよう努力している。居室に入る際はお声掛けして入室するように心がけている。	利用者一人ひとりの生活歴から、誇りやプライバシーの確保について具体的に話し合い、情報を共有している。声かけは特に配慮を要するとしてマニュアルを作成し、接遇研修等も実施して、利用者の尊厳やその人らしい生活を大切にしたいケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようなことを希望しておられるのか、日常の動きの中から気付いたり、スタッフが声掛けしながら、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし集団生活の中でも一人の時間を大切に過ごして頂いたり、自主的に何かしたいと希望されれば、できる限りは叶えられるような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族が用意された身のまわりの物を使用しておられます。その中からご自分で選びおしゃれしておられます。服装の乱れがないよう気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを伺いながら、メニューと一緒に考えたりして、食事を楽しくめるように努めています。準備や片付け等を一緒に行ってききましたが、現在は新型コロナウィルス感染拡大防止の為、スタッフが中心に行っている。	旬の食材や新鮮なものを用意して、利用者と共に材料からメニューを考え、知恵を出し合い、食事が楽しみなものになるよう工夫している。外食ができないので、ピザを取り寄せたり、行事食を企画する等、趣向を凝らして、目で見て、味や雰囲気を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューを工夫しながら、偏りがないように気を付けています。チェック表を使用しながら、個々に必要物を提供できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方の口腔ケアはご本人に任せられている。介助が必要な方には用意から歯磨きなど必要に応じて介助している。義歯は毎晩スタッフが預かり、定期的に除菌洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを見つめながら、自然な流れでトイレへ向かえるよう、声掛けしています。できる限り自立できるように支援しています。	全員がトイレでの排泄ができることを目指し、利用者一人ひとりの排泄リズムに応じた誘導をしている。声かけに配慮し、さりげなく付き添いながら、後ろから静かにゆっくりと見守っている。尿・便意がないと思われる人やオムツ使用の人にもトイレへ誘導する等して、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促し、適度な運動と、食材の工夫、乳製品を取り入れています。時々漢方茶の飲用も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴時間はあるが、希望される時間を伺ったり、ご本人の日々の気持ちの変化を見極めながら気分よく入浴して頂けるよう努めている。	週2、3回の入浴ができるように案内しているが、その日の気分や体調も考慮して、利用者の意向を伺いながら支援している。シャワー浴、清拭も加え、無理のない方法で気分良く、ゆったりと会話をしながらの入浴する時間を持っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方はご自身のペースで休まれている。不調時や疲れが見える時は休んで頂くように声かけ、支援している。なるべく昼間の休息時間が長くないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日誰が何を服薬するのか事前に用意してあり提供できるようにしている。個人のケースファイルに処方箋を綴じて確認できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて家事等をお願いし、時には自主性も大切にしている。ねぎらいの言葉で感謝を伝えることを忘れないようにしている。趣味やレクリエーションを楽しめる時間の提供をもっと行いたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外食の機会はコロナ禍の状況で見合わせる機会も多いが、散歩などスタッフが付き添い、戸外へ出かける機会を大切にしている。	コロナ禍の状況にあって外出は計画していないが、外に一人で出かける利用者もあり、安全に散歩できるよう、付き添いを行っている。また、気分転換として、中庭を歩いたり、ウッドデッキで外気を浴びたりしている。状況を見ながら、今後は外出支援にも積極的に取り組んでいく方向である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、そこから必要に応じて支払いを行っている。入金時には領収書をご家族へお渡しし、入金の明細を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への用事があるときは、声をかけて頂き、電話を使用され、連絡を取ったりしている。郵便物が届いた場合にはご本人に渡している。手紙を書かれた場合は投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にお花や写真、作品を飾ったり、居間や各場所に季節感を取り入れた飾りつけを行っている。わかりやすくトイレやお風呂場の掲示をしている。落ち着いた雰囲気の中で生活することができるように配慮している。	共用空間には、優しい日差しが差し込み、日当たりの良い廊下に出て、車いすで日向ぼっこをしている利用者の様子がうかがえた。利用者が集まるリビングは温度管理がなされ、換気も行っている。利用者はソーシャルディスタンスを考えたテーブルに着き、調理する音に耳を傾け、のんびりとくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、一人ひとりが自由に好きな場所で過ごしている。気の合う方でお話をしたり、作品作りをしたりして楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただくことで生活の継続性を考えている。居室に作品を飾ったり、ご家族様の写真や手紙を飾ったりご本人が楽しめるように工夫している。	居室には、布製のカバーをかけた鏡台とスツールがあり、整理ダンスの上には家族の写真とホームで作成した作品が飾られていたりする等、馴染みのものが置かれ、利用者の個性や従前の生活スタイルを大切にした居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を一般住宅に近いものとし、わかりやすい環境を提供するように努めている。一人で移動しても安心できるように各ユニットのスタッフが見守りを行っている。居室の名札、トイレ、洗面所等わかりやすく掲示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200074		
法人名	株式会社ライフクリエイト		
事業所名	グループホーム喜楽(きらく)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 12 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 5 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193200074-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、一日一日が利用者様各々のペースに合わせた生活になるよう働きかけている。その中で楽しみや役割のある生活ができるように支援している。

・生活の場であることを意識して、利用者様が得意とすること、ご自宅で行ってきたことなどを継続して行ってもらうことで、活力のある日々を送ることができるように意識している。

・協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、医療面での支援が受けられるように体制を整えている。

・家族との関係の再構築の機会ととらえ、ご家族からのアセスメント、ニーズの把握をもとに信頼関係を大切にしている。 ・最後を迎える場としての役割を果たしており、看取りの実践を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき実践を行うように意識している。基本理念が確認できるように玄関に掲げてある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	きらくカフェ、芋煮会など様々な行事にボランティアのご協力を頂いている。また、地域の夏祭りや各種行事にも自治会等からご案内を頂き、参加している。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の方への理解や支援について話し合いを重ねてきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できていない。自治会発行の「ほんでんレポート」にグループホーム紹介や認知症に関する記事を掲載した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議など開催できていないが、紙面で状況や取り組みの報告などを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議や行事を開催することができず、顔を合わせることが減ってしまっている。紙面の報告や電話等で連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は基本玄関の施錠はせず、自由な出入りができるようにしている。また、身体拘束に関する研修を設けている。身体拘束などの適正化のための対策を検討する委員会を運営推進会議に兼ねて実施してきた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を行うことで意識の継続に努めている。職員が岐阜県高齢者虐待対応支援チームに所属しており、社内研修を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する社内研修を行っている。弁護士や司法書士、社会福祉士と相談できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはわかりやすい言葉を用いて十分な説明をするように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ご家族との密接なやり取りが難しい状況であるが、電話などでご意見が伺えるように努めている。本年度、入所者・ご家族様アンケートを実施する予定でいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回ミーティングを開催し意見交換をしている。また、個別に意見を伺う場を設けている。日々のスタッフの申し送りを十分に行い、業務日誌の中で意見を求めるなどして情報を共有し、運営に反映させるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの働き方について希望を確認し、多様な働き方を受け入れていくことで労働環境を整えている。勤務態度や業務理解などを踏まえて評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を受けながら育成への取り組みに努めている。新規スタッフに対して細部にわたってのケア指導が十分にできるようにマニュアル等の整備を開始している。新規スタッフの定着が課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市や地域包括支援センター、広域連合などの主催する研修会、活動を通じて連携し、サービスの向上に努めている。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、交流が難しくなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴し、受け止めながらお話しすることで不安を和らげたり、日々の変化に気づき寄り添いながら、安心して生活ができるように信頼関係を築いていくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の段階でご家族様と話し合い、できるだけ情報を得てどのようなケアを行っていくのかを話し合うことで安心感とより良い関係が築けるように努めている。その後も定期的にご家族と話し合う機会が必要である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期はどのような支援が必要か検討しながら進めている。その時々で適した支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者であることを忘れずに、しかし日常生活を共に過ごす関係であることを意識している。何か家事をするときには一緒に行き、穏やかな日々の生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や美容院等への外出、外食や外泊をご家族様に協力して頂きながら、ともにご本人を支えていくという関係構築に努めている。しかし、外食や外泊、行事の開催など新型コロナウイルス感染拡大防止の為、控えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり面会の機会は減っている。通信でご様子を伝えたり、電話連絡をするなど関係を持つように努めている。面会制限の解除に伴い、面会の場を戻しつつある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになりそうなときは、その前にスタッフが介入するが、それ以外ではできる限り見守りながら利用者同士の関わり合い、支え合う関係を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも来て頂けるような提案をし、相談に応じたりしている。気軽にお越しいただけるような関係を目指したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの様子から気づくことや小さな表情の変化等を見逃さないように努めている。一人ひとりじっくりとお話をする時間を設け、本人の思いや希望の把握に努めている。また詳細な聞き取りをする事で、日々の会話に話題性が増すと考える。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話やご家族様との会話から話を掘り下げていくことで、以前の生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった1日のスケジュールはないため、思うように生活して頂いている。その中で、見守りながら一緒に生活する中で、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い、計画書を作成する中で、ご本人やご家族様の思いを確認することを大切にしている。決定事項はスタッフが確認してケアにつなげるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での言動や行動等を個人記録に書き記し、スタッフ間での情報共有やケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや往診など必要に応じてできる限り社会資源を活用しながらサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカボランティアやきらくカフェ、行事等ボランティアの協力を得ている。おもちゃ図書館のボランティアの協力も受けている。 * 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続や変更等は、ご本人の状態、ご家族の意向等を、話し合いによって行っており、受診や往診等を経て情報のやり取りを行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な判断等、連携先訪問看護ステーションの協力を得ながら直接的な処置や医療につなげるように支援している。いつでも相談できるため、スタッフの負担軽減にもつながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院には、入院に至るまでの経緯や状況を記録に残したうえで、ご家族様や医療機関に説明している。スタッフが面会に行くことで早期退院に向けて現状の把握に努めている。退院時のカンファレンスに参加する事で、退院後も安心して生活できるよう情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて入所時にはご家族様の思いを確認しているが、思いの変化も忘れずに、現状の思いを確認させていただきながら支援に努めたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるように、年3回の普通救命講習を受講した年度もあるが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在は実施していない。AEDを設置しており、施設内や地域の方に活用していただきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方の協力を呼びかけている。毎月、避難訓練を行い反省点を話し合っている。全職員が訓練に参加できるようにすることが必要だと考えている。今後非常災害時のマニュアル等検討していく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声かけの仕方や言葉を選び笑顔で対応するように心がけている。居室に入る際にもご本人に確認することでプライバシーに配慮している。社内外の研修で接遇についても意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を言いやすいような声かけ、選択しやすいような声かけを行い、自己決定につなげている。スタッフが押し付けることのないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり思うように過ごしていただいている。家事では、自発的にされる方には行って頂き、自ら行動を示されない方には提案しながら行って頂くこともあり、満足感、達成感、充実感が感じられるよう労いと感謝を伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に服装の乱れがないか気をつけている。身の回りのものはご本人、ご家族様が用意されるためその中でご本人が選択しおしゃれをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを伺いながら、メニューと一緒に考えたりして、食事を楽しめるように努めています。準備や片付け等を一緒に行ってききましたが、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、スタッフが中心に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立を確認しながら、バランスの取れたメニュー作りを心がけている。水分不足の方には声かけをして飲んで頂いたり、苦手な方には数回に分け1日に必要な水分確保が出来るよう努めている。嗜好品も複数準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方の口腔ケアはご本人に任せている。介助が必要な方には用意から歯磨きなど必要に応じて介助している。義歯は毎晩スタッフが預かり、定期的に除菌洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排せつパターンをチェック表で確認し、それに沿って声かけをしたりして自立できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるように適度な運動と食材の工夫、乳製品を取り入れたり、主治医に相談し、服薬等の調整も行っている。時々、漢方茶の飲用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴時間はあるが、希望される時間を伺ったり、ご本人の日々の気持ちの変化を見極めながら気分よく入浴して頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方はご自身のペースで休まれている。不調時や疲れが見える時は休んで頂くように声かけ、支援している。なるべく昼間の休息時間が長くないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日誰が何を服薬するのか事前に用意してあり提供できるようにしている。個人のケースファイルに処方箋を綴じて確認できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて家事等をお願いし、時には自主性も大切にしている。ねぎらいの言葉で感謝を伝えることを忘れないようにしている。趣味やレクリエーションを楽しめる時間の提供をもっと行いたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外食の機会はコロナ禍の状況で見合わせる機会も多いが、散歩などスタッフが付き添い、戸外へ出かける機会を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、そこから必要に応じて支払いを行っている。入金時には領収書をご家族へお渡しし、入金の明細を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への用事があるときは、声をかけて頂き、電話を使用され、連絡を取ったりしている。郵便物が届いた場合にはご本人に渡している。手紙を書かれた場合は投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にお花や写真、作品を飾ったり、居間や各場所に季節感を取り入れた飾りつけを行っている。わかりやすくトイレやお風呂場の掲示をしている。落ち着いた雰囲気の中で生活することができるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、一人ひとりが自由に好きな場所で過ごしている。気の合う方でお話をしたり、作品作りをしたりして楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただくことで生活の継続性を考えている。居室に作品を飾ったり、ご家族様の写真や手紙を飾ったりご本人が楽しめるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を一般住宅に近いものとし、わかりやす環境を提供するように努めている。一人で移動しても安心できるように各ユニットのスタッフが見守りを行っている。居室の名札、トイレ、洗面所等わかりやすく掲示している。		